
私が死ぬ時

香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私が死ぬ時

【著者名】

ZZマーク

N1589A

【作者名】 香

【あらすじ】

死ね。と言つ言葉の重た約なことをコシコシと書いています（汗）
できる限り読みやすくなるようにがんばりますんで暇のある方は読
んでやって下せー……

飯

ワタシガ
死ヌトキ
色トリドリノ
花タチニ
囮マレテ
ミンナ
笑顔デ
バカナヤツダツタ
ト
語リ
イツカ
ワタシトイウ
存在モ
忘レテ
シマウ
ノダロウ
今
ワタシガ
生キテ
意味ワ
イル

『死ネ』

この言葉、みんな使つたことありませんか？

私はあります

1日に一回はかならず言います。

つても冗談で言うだけだよ??

だって本当に死ぬとは誰も思わないから…

夏の陽が眩しい早朝の出来事

『何なん!??』

『あなたが悪いんやろ!??』

『謝つたらどうなん!??』

『俺がなにしたんだ!??』

「馬鹿じやねーの」

『ムカつく!』

『あんたなんか死ねばいいのに!!!』

『つてかうちのために今ここで死んでください』 「なんで俺が」

「お前の為に」

「死なな」

「いかんのぞ」

「バーカ」

『つ!?!』

『ムカつく!!!』 今日も喧嘩してしまった…

同じバイト先の若店長。

永森 春日

こいつは… 兎に角最悪なやつ。

今日の私のご飯は今こいつの腹の中に収まらへんやがります。

定食屋

“チャンピオン”

ここでは飯時になると、老若男女関係なく人が押し詰める

安い。安い。旨い。

これがモットーなこのバイト先では、休憩時間が一時間一時間は当たり前のように遅れる。

今日も遅い昼飯を食べに事務所へとあがつて行つた。

バイトの私より早く休憩に入っていた春日は… あらうことか私の弁

当をつまみつつラーメンを食べていた。

思い余つて自分のはいていたスリッパを掴み、投げた
メジャー・リーガーも真っ青のバイトで鍛えた強腕で。
スリッパは勢いをつけ奴の背中にクリーンヒット。

同時に上がる

「痛つ！？」

と言ひ悲鳴。

達成感を噛み締めつつ奴に近づく。

『春日店長？』

『お昼』飯ですか？』

『美味しそうですねえ』

『後藤…』

「店長にスリッパ投げたバカたれがあるんやけど

「誰かしらんか？」

『…さつき宇宙人が逃げて行きましたよ？』

「ほお…」

「俺もとうとう世界だけでなく宇宙にまで名が届くようになったか

…」

『早く宇宙のかなたからお迎えが来るといいですね？』

「ははははは

…減給

『黙れ』

『ハゲカス』

『飯代出せ』

『いくら？』

『一千円』

「はあ！？」

「こんなチンケな弁当に一千も払わす気か！？」

『黙れ』

『竊盗で訴えるぞ？』

「恐喝で捕まるやつお前」

『私のご飯』

『卵焼き』

『ハンバーグ』

『ワインナー』

『ブロッコリー』

『春巻き』

『鮭の…』

「わかつた！…」

「わかつたよつ…」

「ほれつ！…」

『確かに』

『ではあと二十分休憩を伸ばしますので』

『その分沢山働いて下さいね?』

「こんなマズいもんに二千かよ…」

『ああ？…』

『なんて！…』

『もつかい言ってみいやボケナス！…』

『うやつていつも喧嘩しては…』

最後は『死ね』と締めくくる。

いつの間にか私はそれが口癖になってしまっていた。

変態

バイトも終わり、せつと家に帰りついで早足で歩く。後ろではイヤミな車がクラクションを鳴らしている。

早足を止め、

私は猛ダッシュを繰り出した。

車は追いついて来て私の隣に並ぶ。

息を止めさらにスピードアップをもぐろんでは見たものの、体がついて来ず減速するはめになつた。「酷いなあ」

「そんな全力で逃げなくても、取つて食べたりしないよ?」

『……つ……』

『あんたなら……やりか……ねないでしょ……』

〔息切らしちゃつて可愛らしいなあ〕

〔疲れてるなら早く乗りなよ!〕

『結つ構ですつ……』『帰れ!消えろ!ハウス!……』

〔僕は犬ですか〕

〔まあ……美咲ちゃんの犬ならなつてもいいけどな……つ〕

『つ……!……?』

「毎日添い寝してあげるよ?朝はのしかかつて起りしてあげる……そして……」

『もういい……黙れ……そして……死んで……』

〔こいつの名前は

……永森 春希

……氣づいたかな……

アレと兄弟なんです。

ホストなので夜にしか出て来ない。

お高いBMに乗り。スーツを着ると

どっから見ても立派なホスト

そしてその口から出る言葉は……理解不能。

はつきり言わなくとも迷惑なのに本人は悪気なんてありませんと言
う態度で近づいて来る。

逃げても逃げても憑いてくる…いや…ついて来る。

今日も命からがら振り切つて。

家に着いた。

家には誰にも知られたくない秘密がある。

私は旦那様がいるのだ。しかも新婚ほやほやっ！

高校から付き合いはじめ、卒業と同時に入籍、大好きな大好きな旦
那様です！

『ただいま』

『…と』

『今日は遅いって言つてたっけ…』

『…』

『寝よ…』

その日は…おかしな夢を見た気がした…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1589a/>

私が死ぬ時

2010年10月9日21時07分発行